

原 著

臨床実習における沐浴中の心理と自己評価

中央看護専門学校

川崎 郷子

目的・方法：母性看護学実習中に沐浴を体験した学生の沐浴の「自己評価」「沐浴中の心理」、またそれらの関連を調査し、沐浴の指導方法を検討した。

成績：その結果、沐浴が「一人で出来る」と自己評価した学生は41.9%だった。また、児の固定が出来ない学生が多かった。モデル人形と違って「児が動く」その為「児の固定」が出来ず不安定のまま沐浴を実施し「不安」がある。その為自分の沐浴技術に自信が持てず「まだ一人で出来ない」と自己評価している。また、接近感情も抱けないでいる。

結論：沐浴に自信がもて接近感情が抱けるようにするためには、①沐浴の手順・物品の準備などは学内で習得させておく、②児が沐浴中泣いたり動いたりすることがイメージできるように指導する、③児の固定方法が習得できるように指導する、④実習期間中に、沐浴実習は3回くらい体験できるように計画することが必要である。

キーワード：母性看護学実習、沐浴、自己評価、接近感情

緒 言

母性看護学実習では初めて体験する技術が多い。そのため、それらの援助を実施するとき、学生は戸惑いや不安を抱く。特に沐浴は、「新生児の生命の安全につながることから、初回といえども確実な技術が要求される。」¹⁾とされているように学生にとっては難しい技術であり実施時には不安や緊張を伴う。その為、看護基礎教育における沐浴実習の必要性について検討したこともあった。しかし、難しいだけに何度も練習し上手に出来た時には達成感を抱ける技術である。また、沐浴中の児への接近感情を抱いたり、新生児の生理的变化を観察するなど多くの学習ができる。平成10年に実施した調査においても「看護基礎教育において、沐浴が一人で出来る事を期待している病院看護職は60.9%、出来なくても良いとしている病院看護職は14.4%」²⁾であり看護基礎教育において一人で出来る事が期待されている技術の一つでもある。実習では沐浴が実施できるだけでなく接近感情が抱けることもねがい指導しているが、「沐浴中、ゆとりがなく児の表情がみられない」と言う学生もいる。

実習中に沐浴を体験した学生の「自己評価」「沐浴中の心理」を調査し、沐浴の指導方法に示唆を得たので報告する。

対象と方法

用語の定義

接近感情とは、³⁾愛着的すなわち児を肯定し受容する方向の感情を言う。本研究では、沐浴中の新生児に対して「かわいい」などと沐浴中に思った場合、接近感情が抱けたとする。

研究目的

実習中に沐浴を体験した学生の沐浴の「自己評価」「沐浴中の心理」、またそれらの関連を明確にし、沐浴の指導方法を検討する。

研究方法

1. 調査期間：平成11年4月～7月
2. 調査対象：3年課程看護専門学校3年生、3年次に母性看護学実習を行った学生31人
3. 調査方法：実習初日に目的を説明し用紙を渡した。沐浴実施後に記入し実習終了時に回収した。沐浴実施後に記入し実習終了時に回収した。
4. 調査内容：沐浴体験回数、良く出来たこと、出来なかったこと、沐浴中の思い、自己評価の5項目。良く出来たこと、出来なかったこと、沐浴中の思いは自由記載に、自己評価は「一人で出来る」「まだ一人で出来ない」の二者択一とした。
5. 分析方法：良く出来たこと・出来なかったことは、当校の沐浴の評価項目「物品の準備」「湯の温度」「児の固定」「洗い方」「手順」「更衣」「おむつの当て方」「所要時間」「片づけ」「臍処置」「声かけ」に分類した。沐浴中の思いはKJ法にて分類した。
統計ソフトHALBAUにて、単純集計・ χ^2 検定を実施した。

沐浴に関する学習方法

1. 2年次後期、授業で沐浴について講義しモデルベビーを用い演習する。授業の評価として沐浴の実技テストを実施する。
2. 母性看護学実習開始前日、沐浴の実技テストを学内でモデルベビーを用い実施する。
3. 病院で学生は、生後2～6日目の正常新生児の沐浴を教員立ち会いのもとで行う。石鹸で行う。臍処置も沐浴後に行う。「一人で出来る」ようになるまで何度か体験するように指導し、体験月日や回数は学生が計画する。

結 果

1. 体験回数と自己評価 (図1参照)
 体験回数は1回1人(3.2%)、2回17人(54.8%)、3回13人(41.9%)、平均2.4回であった。自己評価で「一人で出来る」とした学生は1回目31人中0人(0%)、2回目30人中9人(30.0%)、3回目13人中4人(30.8%)。最終的には13人(41.9%)の学生が「一人で出来る」としている。
2. 良く出来たこと (表1参照)
 1回目は、物品の準備(16.1%)、手順(16.1%)であった。2回目は、物品の準備(30.0%)、児の固定(30.0%)、所要時間(23.3%)であった。3回目は、物品の準備(53.8%)、手順(38.5%)であった。

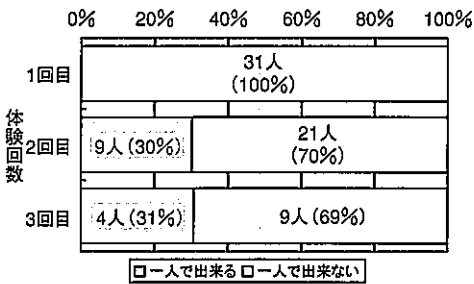


図1 体験回数と自己評価

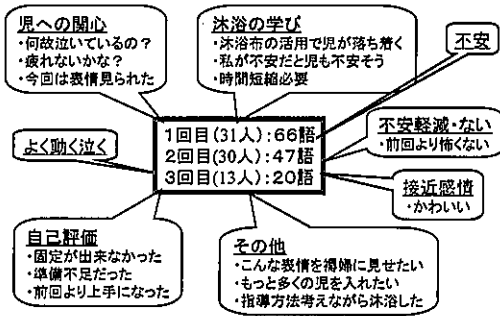


図2 沐浴中の心理

3. 出来なかったこと
 1回目は、児の固定(64.5%)、物品の準備・所要時間・臍処置(32.3%)であった。2回目は児の固定(33.3%)、臍処置(26.7%)であった。3回目は、児の固定(46.2%)であった。
4. 沐浴中の心理 (図2・3参照)
 1回目は66、2回目は47、3回目は20の内容が記載されていた。「児への関心」「沐浴の学び」「不安」「児が動く泣く」「自己評価」「不安軽減」「接近感情」の8群に分類した。8群中記載内容が多かった「児が動く泣く」「不安」と「接近感情」について沐浴回数による違いを比較した。
 「児が動く泣く」などモデル人形との違いを表現していた学生は、1回目17人(54.8%)、2回目2人(6.7%)、3回目0人だった。「落としてしまいそうで怖い」など不安を表現していた学生は、1回目16人(51.6%)、2回目3人(10%)、3回目0人(0%)だった。2・3回目では、「沐浴布の活用で児が安心してあまり動かない」「固定が安定していると動いても大丈夫」などに気づきながら沐浴していた学生もいた。「かわいい」など児への接近感情を抱いた学生は1回目3人(9.7%)、2回目4人(13.3%)、3回目4人(30.8%)、合計9人(29.0%)だった。
5. 自己評価と沐浴中の心理の関連
 1) 自己評価と接近感情 (図4・5参照)
 2・3回目ともに、自己評価で「一人で出来る」とした学生の方が接近感情を抱いた学生の割合が高い。

- 2) 不安と接近感情 (図6・7参照) 1・2回目、

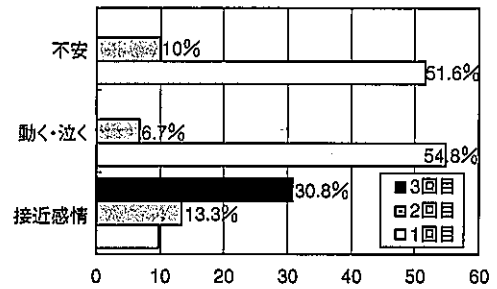


図3 沐浴回数と沐浴中の心理

表1 良くできたこと・できなかったこと

	良く出来た						出来なかった					
	1回目		2回目		3回目		1回目		2回目		3回目	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
物品準備	5	16.1	9	30.0	7	53.8	10	32.3	6	20.0	0	0.0
湯の温度	1	3.2	1	3.3	1	7.7	2	6.5	2	6.7	2	15.4
児の固定	1	3.2	9	30.0	2	15.4	20	64.5	10	33.3	6	46.2
洗い方	4	12.9	2	6.7	1	7.7	1	3.2	2	6.7	1	7.7
手順	5	16.1	4	13.3	5	38.5	2	6.5	2	6.7	0	0.0
更衣	4	12.9	1	3.3	0	0.0	1	3.2	2	6.7	0	0.0
おむつ	1	3.2	1	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
所要時間	0	0.0	7	23.3	1	7.7	10	32.3	4	13.3	1	7.7
片づけ	1	3.2	2	6.7	0	0.0	2	6.5	0	0.0	0	0.0
声かけ	0	0.0	2	6.7	1	7.7	2	6.5	2	6.7	1	7.7
臍処置	0	0.0	2	6.7	1	7.7	10	32.3	8	26.7	2	15.4

不安を表現した学生の方が接近感情を表現した学生の割合が低い。

考 察

沐浴が「一人で出来る」とした学生は41.9%であり、自信がもてないまま実習を終えている学生が多い。「一人で出来る」まで何度か体験するように指導しているが、他の学生や自分の実習スケジュールの調整、教員とのスケジュールの調整が難しく、1~2回の体験で終わっている学生もいる。

児の固定ができなかったとしている学生が多い。児の固定が出来ない理由の1つに、モデル人形と違って「動く・泣く」ということがある。沐浴時に動いて固定が難しいという技術面の理由もあるが、「思っていた以上に動いて戸惑った」と記載した学生がいたことから、想像していた以上に児が動いたり泣いたりすることへの戸惑いもあったことも推察できる。「動く・泣く」ということで戸惑わない様に学内での指導が必要である。川口らが「学内演習は手技に限ってみても、モデル人形では、動きや感触に限界があることから、教材でVTRの利用、指導方法も検討を要すると考える。」⁴⁾と述べているように、児が動くということを十分認識できるように沐浴中の新生児の状況をビデオで示したり、「入浴時、児は動いたり・泣いたりする」と言うことを強調することが必要である。又、演習では、固定方法を習得できるように指導する必要がある。「沐浴布の活用で児が安心してあまり動かない」と記載した学生がいた。しかし、実施場面では沐浴布を十分活用できない学生も多い。沐浴布の効果についても理解し十分活用できるように指導することが必要である。

沐浴の手順・物品の準備は、学内演習で何度も体験

しているためにできる学生が多かった。これらは学生が自信を持って出来たことである。沐浴の手順・物品の準備など学内演習で実施できることは学内で反復練習し習得しておくことで、実施時の不安や緊張を軽減することができる。

接近感情を抱いた学生は自己評価で「一人で出来る」とした学生が多かった。接近感情を抱いた学生の方が不安を抱いた学生が少なかった。また接近感情を抱いた学生が少ないため、関連を明確にはできないが沐浴中の不安が無く、自信を持って沐浴できた学生の方が接近感情を抱くことが出来る。服部が「情意領域の到達度が1回目より3回目に上がっている原因として『思いやり』の項目をみると、1回目はかなりの緊張感があり、言葉掛けには至らなかったが、3回目には技術に自信がもてる児への配慮ができるようになったから到達度が上がったと考える。」⁶⁾と述べているように児への配慮・接近感情がもてるようになるためには3回くらい体験し、緊張も軽減し自分の沐浴技術に自信がもてるようになることが必要である。

結 語

母性看護学実習において沐浴が「一人で出来る」と自己評価した学生は41.9%だった。また、沐浴中の児に接近感情を抱けた学生は29.0%だった。児の固定が出来ない学生が多かった。モデル人形と違って「児が動く」、その為「児の固定」が出来ず不安定のまま沐浴を実施し「不安」がある。その為自分の沐浴技術に自信が持てず「まだ一人で出来ない」と自己評価している。また、接近感情も抱けないでいる。

沐浴に自信がもて接近感情が抱けるようにするためには、①沐浴の手順・物品の準備などは学内で習得させておく。②児が沐浴中泣いたり動いたりすることが

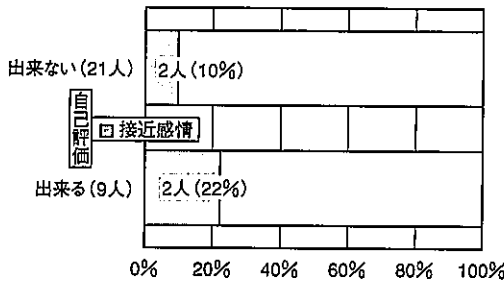


図4 自己評価と接近感情(2回目)

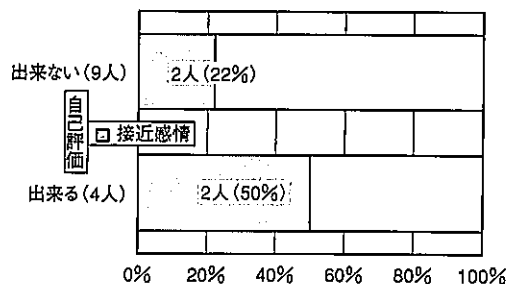


図5 自己評価と接近感情(3回目)

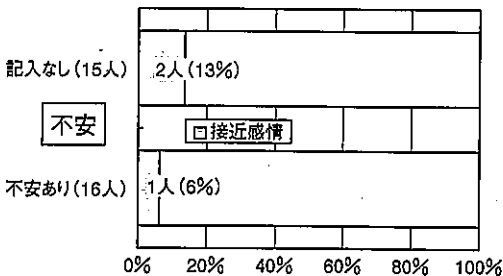


図6 不安と接近感情(1回目)

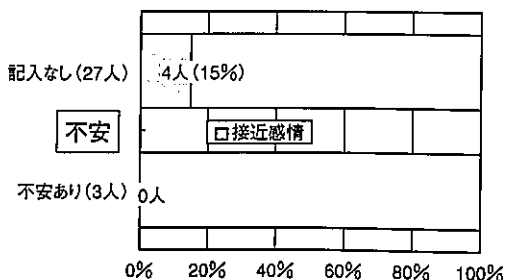


図7 不安と接近感情(2回目)

イメージできるように指導する。③児の固定方法や沐浴布の活用が習得できるように指導する。④実習期間中に、沐浴実習は3回くらい体験できるように計画する。

今回は、調査対象数が少ない、客観的な評価基準がないなどのため不明確な点もあった。教員の評価なども行い沐浴の指導方法を今後も検討していきたい。

本研究にご協力して下さいました学生の皆様に感謝いたします。

文 献

1. 川口妙子, 他. 沐浴の技術指導の一考察, 第24回日本看護学会集録 (母性看護) 1993;147.
2. 川崎郷子. 看護基礎教育における母性看護技術の到達度. 母性衛生 2001; 42 (2): 333.
3. 花沢成一著. 母性心理学. 医学書院; 1992;64.
4. 前掲書¹⁾, 1993; 147.
5. 服部明子. 沐浴技術実習における評価. 第26回日本看護学会集録 (母性看護) 1995; 168.

英 文 抄 録

Original Article
Mental condition and self evaluation during child-

bathing in clinical practice

Central nurse school

Satoko Kawasaki

Objective and Study design: We examined the self-assessment and mental state of student who experienced bathing during practice of motherhood nursing learning practice for better guidance method of bathing.

Results: As a result, 41.9% of them thought to do bathing of themselves. There were many students who could not fix a baby because a baby moved during bathing unlike a model doll, which made students anxious about bathing technique and lose sense of intimacy.

Conclusion: For self-confidence and sense of intimacy the followings were required: ① understanding of procedure of bathing and preparing instruments in school, ② instructing to get an image of baby's movement and also cry during bathing, ③ training to master the fixation method of baby, ④ planning to experience a bathing practice 3 times at least.

Key Words: maternal nursing practice, child-bathing, self-assessment, sense of intimacy